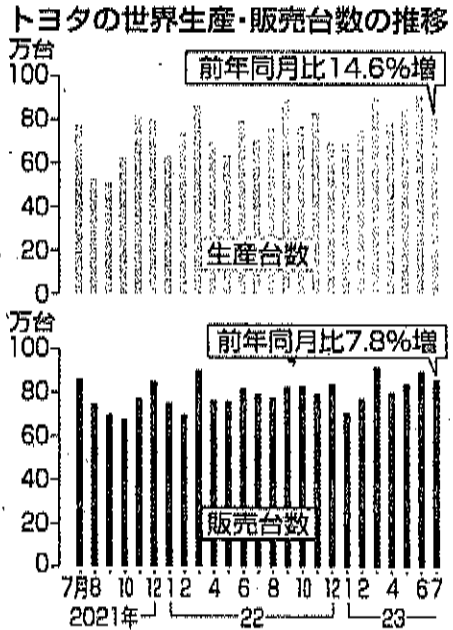


トヨタ7月世界販売最高

前年比7.8%増、日米欧好調

トヨタ自動車が三十日発表した七月の世界販売は前年同月比7.8%増の八十五万九千五百六六台で、七月として過去最高だった。前年超えは六カ月連続。国内や北米、欧州が好調だった。一方、現地の新興メーカーなどとの競争が激化している中国は15.4%減だった。



	国内生産	世界生産	世界販売
トヨタ	30万8686 (39.2)	80万9400 (14.6)	85万9506 (7.8)
スズキ	8万2240 (3.9)	29万4504 (0.8)	26万3984 (6.4)
マツダ	7万2232 (3.2)	10万2378 (2.6)	10万1823 (18.6)
日産	6万3795 (22.6)	27万1505 (▲4.7)	26万4894 (▲0.5)
スバル	6万1432 (2.9)	8万5192 (8.0)	7万3107 (14.9)
ホンダ	5万8972 (▲4.2)	27万8755 (▲19.2)	31万4146 (▲1.9)
ダイハツ	5万2948 (▲24.7)	12万5596 (▲4.6)	7万5997 (▲7.1)
三菱自	4万3042 (▲0.7)	8万7760 (▲8.9)	6万0384 (▲9.0)
合計	74万3347 (13.0)	205万5090 (1.0)	201万3841 (4.4)

※単位は台()内は前年同月比増減率% ▲はマイナス。世界生産は国内生産と海外生産の合計。ダイハツはマレーシアの合弁会社プロドワの実績を含む。

地域別では、前年の半導体不足による生産減の反動もあり、国内が35.2%増

の十四万一千百七十八台と大幅に伸長。ハイブリッド車(HV)など電動車が好調な北米は8.9%増の二十二万四千二百十五台、欧州は17.8%増の九万二千九百九十九台だった。

急速な電気自動車(EV)化が進む中国は、一月連続で前年割れとなる十五万二千七百七十七台だった。競争激化のほか、前年の乗用車購入に伴う減税策の反動減があった。

フィリピンやインドは好調だったが、アジア全体でも7.0%減となった。トヨタは中国で電動化の現地開発体制の強化を進めており、現地で受け入れられる商品の開発で巻き返しを図る。

世界生産も、七カ月連続で前年超えとなる14.6%増の八十五万九千五百六六台で、七月として過去最高だった。